

ピッチ資料

※本企画書は日本の業者が日本国内でトークンを販売するものではありません

パラオ・マジェスティ・デベロップメント株式会社

事業計画

パラオデジタルドル & パラオ開発トークン



この資料に記載されている内容は、すべて事業計画に基づくものであり、将来的な状況や環境の変化により、内容が変更される可能性があります。

2024年 12月18日

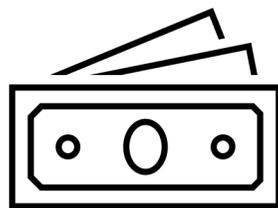
我々は「ステーブルトークン」と
「未来を投資するトークン」の
2つを開発しています。

ステーブルコインの裏付け資金は、運用すべきか否か？

目的別に分けよう

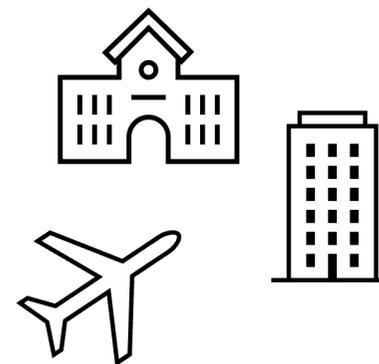
デジタルドル

純粋なデジタル通貨
(ステーブルコイン)
裏付け資金は一切運用しない



開発トークン

運用や投資事業用
事業益の分配用



ステーブルコインの裏付け資金を
投資に使うべきなのか？

投資用トークンとステーブルコインに
分けたらどうでしょうか？

パラオデジタルドル(PWD)とパラオ開発トークン(PWDT)



パラオデジタルドル(PWD)
Palau Digital Dollar

ドル本位制のデジタル通貨

パラオは歴史的にアメリカドルを通貨として使われており、そのアメリカドルを完全に担保して、確実に兌換できるデジタル通貨の発行を行います

ERC-20トークン

ブロックチェーンはイーサリアムをベースとして、50種類以上のウォレットで取扱いができ、誰でも簡単に送金や入金が行え、国際的な取引で効力を発行します

パラオ電子住民票と併せて

電子住民票を入手することにより、パラオ国内外の仮想通貨取引所に登録することができ、PDWの現金化などが可能に
また将来的にはクレジットカードでの決済やデビットカードでの出金などが可能になる予定※



パラオ開発トークン(PWDT)
Palau Development Token

パラオ開発支援の為のトークン

PWDのプレセール時に、その金額の一部をPWDTとして発行を行い、PWDに関連する事業やパラオ開発事業について、ホルダーに対して運用及び還元を行って行きます

パラオ開発の事業益の分配

パラオ開発事業の利益が配当されます。Palau Majesty社主軸で行うホテル事業や運営、アフォーダブルハウジング、SDGsを主軸とした事業の運営等を行い、その事業利益をPWDにて定期的に配当します

PWDの販売手数料や利益の分配

PWDTの所有者は、パラオ開発事業の利益が配当に限らず、今後流通量を大きく流通量を増やすであろうPWDの販売手数料の一部や、PWDをベースとした仮想通貨取引所の利益が配当されます。

※現地法律の改正等が現在進行しています。今後、電子住民票で銀行口座の開設が出来る予定です。

PWD及びPWDTの資金調達

Palau Digital Dollar (PWD)

制限なし

銀行に担保されている米ドルと100%同額のステーブルコインを発行します。PWDはICOで資金調達する訳ではなく、取引所や販売所での発行、PWDTの配当金として発行されていきます。

Palau Development Token (PWDT)

5億ドル

PWD発行会社、Sheraton Palau Hotelの建築費、クリニックや糖尿病解決の為の投資、SDGs関連の事業費を含みます。（日本円にして約750億円）

PWD & PWDT

パラオデジタルドル &
パラオ開発トークン

技術の目的

生活を複雑にすることではなく、シンプルにすること。

イノベーションの目的

利益を追求することではなく、永続する価値を創造すること。

私たちのプロジェクトの目的

単に資金を調達することではなく、コミュニティに力を与え、パラオや世界での産業を変え、未来のフィンテックに長く影響を与えることを目指しています。

ブロックチェーンの可能性を活かして、
すべての人が**未来に関与できる世界**を築いていきます。

デジタル通貨「PWDT」の未来を共に描けるのであれば、あなたにとって大きな収益機会となるでしょう。

パラオ開発トークン(PWDT)での事業

ベンチャーキャピタルの機能として、パラオ及び世界で必要となる事業に投資します。
以下はメインの3つの事業です。



現金で100%担保されるステーブルコイン であるパラオデジタルドル(PWD)事業

完全に担保或いは供託されていないステーブルトークンの時代は、いつか終わりを迎えることを、市場は絶対に分かっているはず。新しい時代の幕開けです。

パラオで絶対に必要とされているSDGs中心の事業

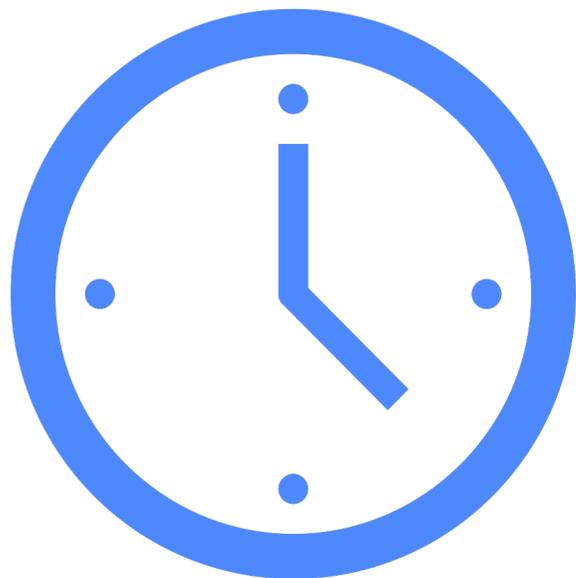
ハイエンドツーリズムを対象としたシェラトンパラオのホテル事業、SDGsを中心とした現在のパラオや世界に求められている事業に投資を行っていきます。

糖尿病を「完治」してしまう未来

パラオでは人口の21%が糖尿病*、人口の80%が肥満とされています。糖尿病だけでなく、糖尿病合併症なども問題になっており、これらが完治できるようになれば、パラオは世界の健康のリーダー国になることができます。これは、「完治薬の開発」だけでなく、食生活を含めた総合的な事業となります。

一度、10年後の計算をしてみよう

ステーブルコイン市場は5年後に2.8兆ドルに達し、8年後にはさらに拡大すると予想されています。PWDがその市場の数%でも獲得できれば、PWDT保有者は大きな収益を期待できます。



約35%-50%のビットコインは消失

ステーブルコインでも、様々な要因で、秘密鍵が紛失される。

8年ごとに新規トークンを再発行&リディーム

トークンを定期的に再発行し、旧トークンをリディームをすることで、流通量と担保している現金をきちんと管理する。

2年間放置された旧PWDはPWDT保有者に配当

10年後に想定される交換されない旧PWDは、利益としてPWDTのユーザーに新しいPWDとして配当される。

専門家の知識や研究内容を
社会実装させるプロジェクトを
PWDTの資金で推進します

事業チーム紹介 (ボードメンバー)



小島 史久 Fumihsia Kojima
(Palau Majesty Inc. 取締役)

Studio Makyu, Co., Ltd. (CEO)
Biozipcode, Inc. (CEO)
KIYAN MEDICAL Co., Ltd. (CTO)

コンピューターエンジニア、
バイオインフォマティシャン、
フィンテックアドバイザー、投資家

Studio Makyu

フィンテックからバイオインフォマティクスまで開発におけるソリューションの提供

ウェブマーケティング、ウェブ制作、マルチメディアコンテンツ制作、ソフトウェア開発、ITコンサルティング（フィンテックや日本の警察庁向けのコンサルティングを含む）、スーパーコンピューティング、トレーニングやセミナーなど。



「糖尿病を完治させる治療薬」と「特定の細胞に薬を届ける技術」で、
病気を対症療法でなく、その完治を目指す

株式会社バイोजップコードは、滋賀医科大学に設置された再生医療開拓講座（共同研究講座）特別教授である小島秀人教授を中心に、共同で糖尿病を完治する治療薬の開発や細胞標的化技術（バイोजップコード）事業に取り組んでおります。また、大学での研究から社会実装まで、研究開発から臨床まで、製薬会社であるKIYAN PHARMA社を母体に、すべてを自社で取り組める環境を揃えております。

事業チーム紹介 (ボードメンバー)



登坂 誠 Makoto Noborisaka
(Palau Majesty Inc. 取締役)

Blue Ocean Design Co., Ltd. (CEO)

ランドスケープ設計者、
都市計画&デザイン、建築家



Blue Ocean Design

ランドスケープデザイン、都市計画・デザイン、建築家

日本出身で、都市計画およびランドスケープデザインの分野において豊富な経験を持つ登坂誠（のぼりざかまこと）は、20年以上にわたるキャリアの中で50以上のプロジェクトを手掛けてきました。その中には、東京駅八重洲広場、東京ミッドタウン広場、大阪ドームシティといった大規模開発も含まれています。2015年には、日本を代表する建築設計事務所で20年の経験を積んだ後、「ブルーオーシャンデザイン」を設立し、現在はアジア全域で開発プロジェクトを管理しています。ほとんどのPalau Majesty社での建設プロジェクトは、登坂誠の指揮のもとで進められる予定です。

事業チーム紹介 (アドバイザー)



藤 勝雄 Katsuo Fuji
(Palau Majesty Inc. 顧問)

パラオ共和国コロール州政府廃棄物
コンサルタント兼知事付きの経済開発
部門特別アドバイザー

プラント系技術者、ビジネス顧問

藤勝雄

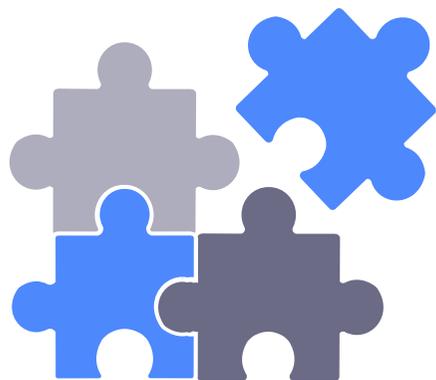
(コロール州廃棄物管理事務所コンサルタント、ガバナー付き経済開発特別顧問、アンバサダー)

-パラオ在住

-2004年10月～2006年10月の期間、JICAのシニアボランティアとしてパラオ共和国コロール州政府廃棄物管理事務所に派遣され、総合的廃棄物管理の指導やコンポスト施設の開発などに従事。

JICAシニアボランティア任期終了後、コロール州政府が、同事務所のコンサルタントとしての雇用契約を締結し、現在まで、コロール州廃棄物管理事務所コンサルタント兼ガバナー付き経済開発特別顧問兼アンバサダーとして、廃棄物管理事務所や、廃瓶をガラス細工に生まれ変わらせるベラウ・エコ・グラス・センターの運営指導にあたっている。

事業チーム紹介 (コラボレーション)



あなたのお名前

我々の家族でありパートナー

コラボレーションメンバー

この事業は、現地のパラオだけでなく、世界的なプロフェッショナルなメンバーが集まって、それぞれの事業を達成します。もちろん、PWNDを購入して頂けるホルダーも、誇るべきメンバーの一員です。

PWD及びPWNDに賛同頂ける方は、ホームページにお名前と国名を掲載できます。

<https://palau-majesty.pw/family>



※本企画書は日本の業者が日本国内でトークンを販売するものではありません

パラオ・マジェスティ・デベロップメント株式会社

事業計画

パラオデジタルドル & パラオ開発トークン



2024年 12月18日

プロジェクトの要旨

はじめに

この事業計画は、パラオ・マジェスティ・デベロップメント株式会社（以下「PMD」）が管理する戦略的ホスピタリティ開発に関する投資パートナーシップの機会を評価・検討するために必要な関連情報を提供することを目的としています。PMDは、パラオ共和国に拠点を置く日本のアドバイザリーファームです。このメモランダムでは、パラオ共和国の政府およびコロール州との協力のもと、観光産業を中長期的に発展・強化するための戦略的アプローチを示します。これには以下の要素が含まれます。

背景

パラオの島々は、豊富な海洋生物と美しい水中環境により、初心者から熟練ダイバーまで、非常に人気のあるダイビングスポットとして知られています。これだけでも、パラオは地域の島国の中でグアムに次いで2番目に高い一人当たり所得を誇り、東京から4時間、グアムから2時間という戦略的な位置から今後も、成長が期待されています。

しかし、これらの数字がすべて魅力的とは限りません。パラオの人口は約20,000人で、300の島々のうち12の島に集中しており、訪問島数と住民の比率は10:1以上という状況です。これにより、廃水処理の問題やインフラの不備、環境持続可能性などに対する懸念が高まっています。

また、海洋レクリエーションの人気にもかかわらず、近代的な宿泊施設は1980年代に日本が建設した2つのホテルに限られており、新たなホテル建設が始まってはいますが、現在も足りない状況が続いています。また、アメリカナイズが進んでいるパラオでは、糖尿病が大きな社会問題になっているが、今すぐに、生活を含む生活習慣は変えられません。

この状況を踏まえ、本イニシアチブでは、高級近代ホテルの建設を計画しています。ホテルの建築設計はすべて現地の委員会によって承認されており、マリオット社との契約も締結されており、建築を行う準備は整っています。また、糖尿病を完治させる研究とその社会実装のモデル事業をパラオで行い、このパラオの発展の足かせとなっている足りない部分を補えないかと考えております。

これら2つのプロジェクトは、パラオ国外からの直接投資が必要で、数百万ドルの経費が見込まれます。そこで、現パラオの大統領が進めているフィンテックを使って、ステーブルコインプロジェクトを実行し、これら事業のファンディングを行います。

PMDのボードメンバーである小島史久氏は、ブロックチェーンの専門家であり、世界で10を超えるビットコインのマイニング施設の運営を行った経験があり、日本では金融庁や警察向けの勉強会等を催している第一人者です。また彼の父で国立大学の教授でもある小島秀人教授は、糖尿病の原因を解明し、それを完治させる方法を開発した世界的な研究者であります。

プロジェクトの要旨



戦略的目標

- 先進的な医療と学術的医療を中心とした世界クラスのホスピタリティプラットフォームの構築
- 高額所得層トップ0.1%に向けた医療・観光を通じたパラオのブランド強化
- 太平洋地域で問題となっている糖尿病の問題の解決や社会実装のモデル事業による国際社会への貢献
- パラオをフィンテックを活用した次世代型金融のハブに

短期的な効果

- 数百以上の新規雇用創出
- 教育および高等教育への意識向上
- 1人あたり観光客支出の増加
- 公共および民間セクターを通じた経済刺激

このイニシアチブは、パラオ共和国の自然環境と美しい海洋を活用しながら、SDGsに対応したプロジェクトを進め、国のブランドを長期的に向上させることを目指しています。

事業計画

信頼出来る

世界基準の 決済システム とトークン



パラオデジタルドル

パラオ共和国をフィンテックの
「新たなグローバルハブ」へ導く取り組み

Project for:

- ✓ ドル本位制のデジタル通貨
- ✓ ERC-20トークン
- ✓ マルチチェーン（Polygonチェーン他）
- ✓ パラオ電子住民票と併せて活用（RNS.ID）

パラオデジタルドルのトークン設計



1 Palau Digital Dollar (PWD) = 1 USD

基本的には、前払式支払い手段としてのデジタル通貨として機能
銀行口座にあるアメリカドルの100%裏付け有りの「ステーブルコイン」
裏付けの資金は、一切運用を行わない



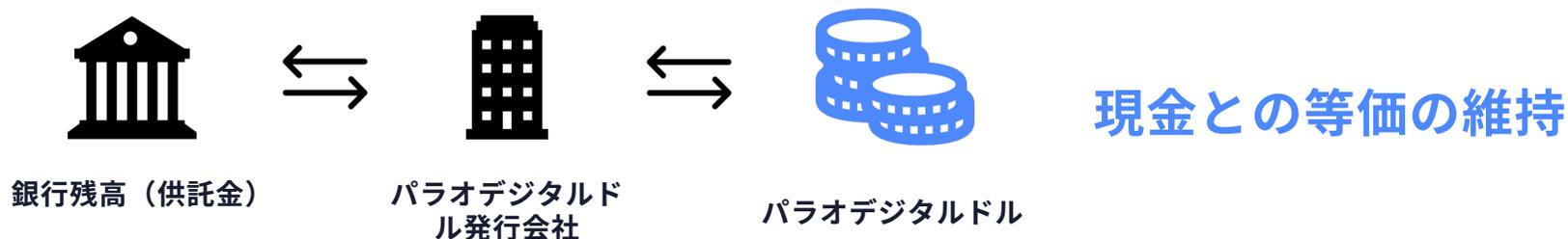
現金との等価の維持



パラオデジタルドル経済圏



パラオデジタルドル(PWD)は、通常の現金と同じように使えます



決済手段



通信販売



仮想通貨取引所



コンタクトレス
支払い



国際送金



交通費やホテル
等の支払い

*QRコード決済としても活用が可能、日常の決済から国際送金まで全てをカバーする

パラオデジタルドルのトークン設計



シンプルなERC-20でのトークン発行

基本的なERC-20対応のウォレット上で活用できるメイントークンです。



マルチチェーン（ポリゴンチェーン等）でのトークン発行

イーサリアムのサイドチェーンで日常使いのトークンとして活用。
※ただし、イーサリアムのアップデートで今後送金手数料が安くなってくる可能性もあるので、メインとしては取り扱わず、日常使いのトークンとして発行します。

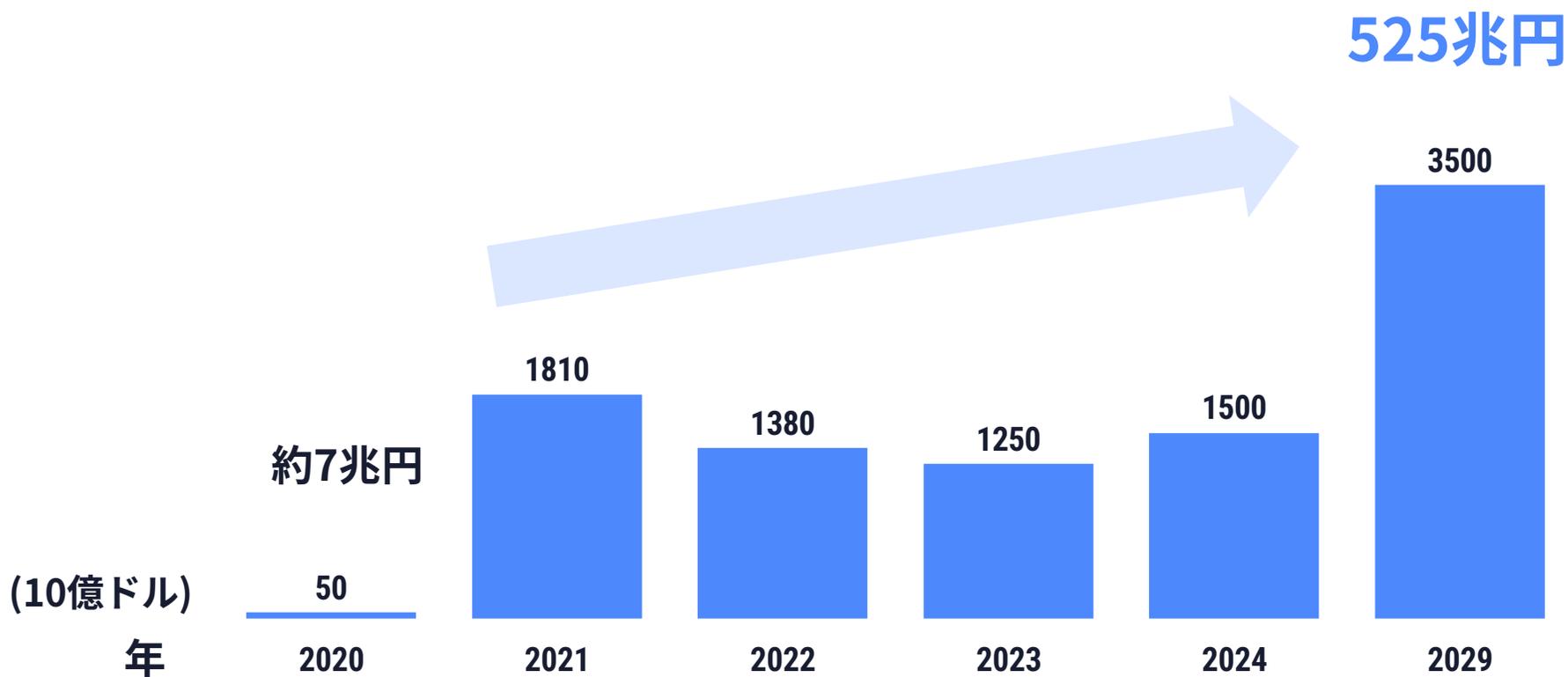


発行量と流通量を管理する

前提として、多くのステーブルトークンは「裏付け資金」を流用して運用が行われますが、パラオデジタルドルは一切運用をせず、運用トークンは別に発行されます。また流通量も裏付け資金の額と必ずペッグされるように運用されます。

ステーブルコインの市場

ステーブルコイン市場は、2029年までに約3.5兆ドルに達すると予想されている。



E-レジデンシー (電子住民票)

RNS.IDパラオデジタル滞在プログラム

BBCのニュース: https://www.youtube.com/watch?v=YOuLaKqO_pU



- ☑ パラオ国内外の仮想通貨取引所の登録に使えるID
- ☑ 将来的には銀行口座を開設することが可能に※
- ☑ 将来的にはパラオ国内の住所の利用が可能に※
- ☑ パラオ国内の収入に対して0%の所得税
- ☑ パラオへの入国につき180日間の滞在許可
- ☑ パラオのホテル等の価格がパラオ人向けの価格に

※2025年の夏頃を予定

※パラオ政府公式HP https://rns.id/?rc_by=Bb9lfAEC

ERC-20規格の幅広い互換性



イーサリアムがベースのトークン

50種類以上のERC-20トークンのウォレットが存在
(カスタムトークンが使えるウォレットで使用可能)

そのほとんどでQRコード決済をサポート

トークンの受け取り側は、スマートフォン自体を用意する必要なし(QRの提示でOK)
(トランザクションの確認はPC/スマホで可能)

*以下のURLより、イーサリアムウォレットの比較ができます。
<https://ethereum.org/en/wallets/find-wallet/>

QRコード決済の導入とメリット

簡単 + 早い + 安全

= PWD QRコード決済

- ホテルでの宿泊代の支払い
- レストランやショップでの支払い
- 観光施設の入場料など



QRコード決済とは？

スマートフォンを使って、QRコードを読み取るだけで、簡単に支払いが完了する仕組み

使い方の簡単さ

ホテルや店舗での支払いがQRコード一つで可能
レジで時間を取られることなく、スムーズに取引ができる。

PWDを使用するメリット

即時決済

仮想通貨PWDを使用することで、
国境を越えた瞬時の支払いも可能

安定した価値

ステーブルコインPWDは法定通貨に連動しており、
価格変動のリスクが少ない。

セキュリティ

ブロックチェーン技術による高いセキュリティ
送金情報の改ざん等は不可能

SDGsを中心とした

パラオの未来 を創る開発事業



パラオ開発トークン

開発トークンでパラオの成長を革新する

Project for:

- ✓ パラオでの開発事業資金のファンディング
- ✓ 事業の配当はすべてパラオデジタルドルで
- ✓ SDGs中心の事業を行い経済循環を実現
- ✓ Web3.0と「ハイエンドツアーリズム」の融合
- ✓ 糖尿病を完治できる治療薬をパラオと世界に

*SDGs: Sustainable Development Goals - <https://sdgs.un.org/goals>

我々が
パラオで
実現する
目標

- ✓ パラオを太平洋のフィンテックのハブにする。
- ✓ ブロックチェーンを活用して、
ハイエンドツーリズムを呼び込む。
- ✓ 糖尿病を完治する。

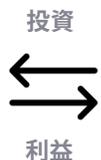
PWDT: ベンチャーキャピタル的な役割を



パラオ開発トークン(PWDT)は、パラオでの成長産業に投資し、その事業利益をすべてパラオデジタルドル(PWD)でリターンします。



事業投資先



パラオマジェスティ
デベロップメント株式会社



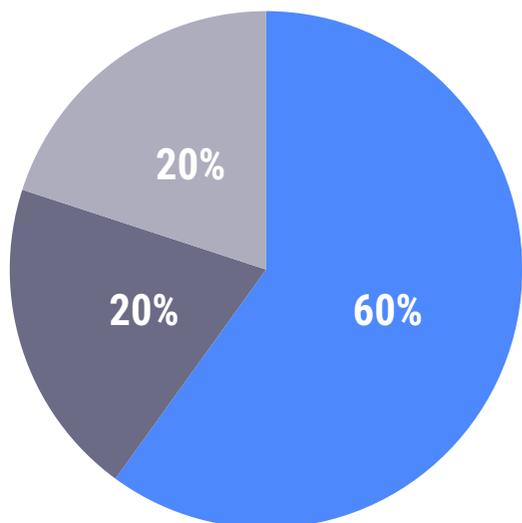
PWDTホルダー

ステークホルダーにはPWDで利益を還元

*PWDTは配当型トークン（準セキュリティトークン）になるので、パラオ国内或いはE-レジデンシー（デジタル住民票をお持ちの方）への販売になります

パラオ開発トークン（PWDT）所有者のメリット

パラオ・マジェスティ・デベロップメント社での運用利益の分配



- PWDT ステークホルダー
- 株主及び政府組織
- バックアップ資金

配当比率（利益の配当）

- ✓ 60% をパラオ開発トークン(PWDT)のステークホルダー(所有者)に
- ✓ 20% を株主及び政府組織に
- ✓ 20% をバックアップ資金に

配当は年に2回、4月と10月を予定

*PWDTは転売できません。また、最初にICOサイトで登録されたウォレットアドレス以外に移動させた場合、無効になります。

世界のハブとなるパラオでのビジネス

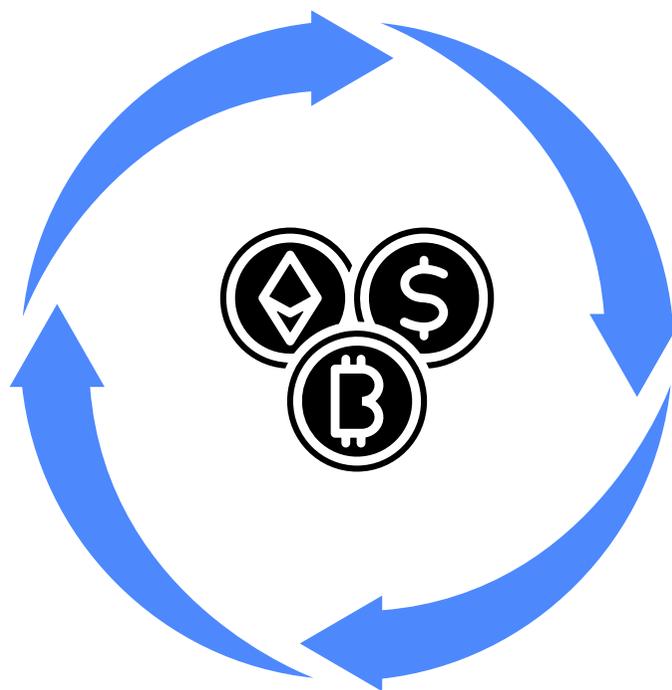
中央銀行デジタル通貨（CBDC：Central Bank Digital Currency）に代わる、世界共通の決済用前払式支払い手段の発行中心に、パラオでのSDGs開発に貢献する、**VCの機能を持つ**パラオ開発トークン

グローバル接続のために 壁を取り除く

パラオのエコシステムを世界と繋げるためには、外部と内部を隔てる壁を取り除く必要があります。WEB3技術は、エコシステム同士が国境を越えてスムーズな連携を促進します。

パラオをイノベーションの 拠点に

日本やハワイ、グアムと同様に、パラオも「島国」として特有の可能性を秘めています。ビジネスや金融の世界では国境がなくなりつつあるいま、投資家を積極的に招き入れることが可能です。



グローバル化の中でのチャンス

世界のグローバル化のスピードは地域によって異なるものの、緩やかなグローバル化は新たなチャンスを生み出します。小さくても大きなインパクトを持つイノベーションは、世界を変える力があります。

イノベーションとは、 未知のものに立ち向かうこと

政府と企業は、科学だけでなく、リスクを教えることが必要です。パラオがフィンテック分野でグローバルプレイヤーとなるためには、計算されたリスクを受け入れ、新しいフロンティアを開拓する文化を育むことが重要です。

\$5億ドルのPWDTに関する資金調達



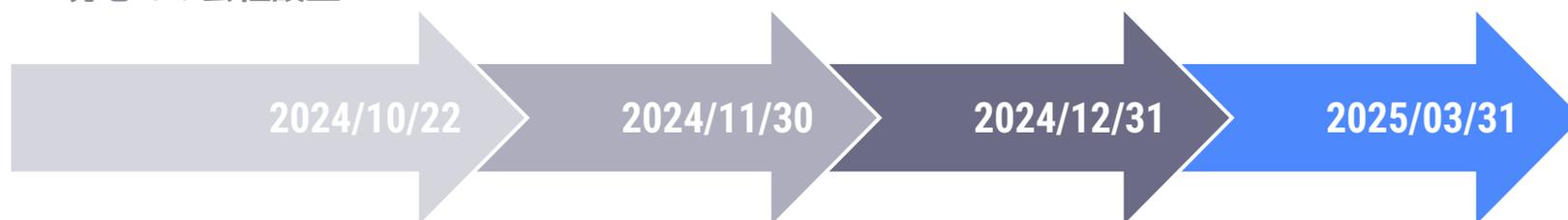
事業は全て基本的に慈善事業ではなく、採算性が見込めニーズがある事業のみを行います。資金調達状況によっては事業内容は変更されます。

具体的なトークン販売のプロセス

以下のスケジュールでPWDT及びPWDの事業を行う

- ・ ホワイトペーパー
- ・ ポータルサイト
- ・ ICOサイト
- ・ 現地での会社設立

- ・ PWDTのプレセール 第2期

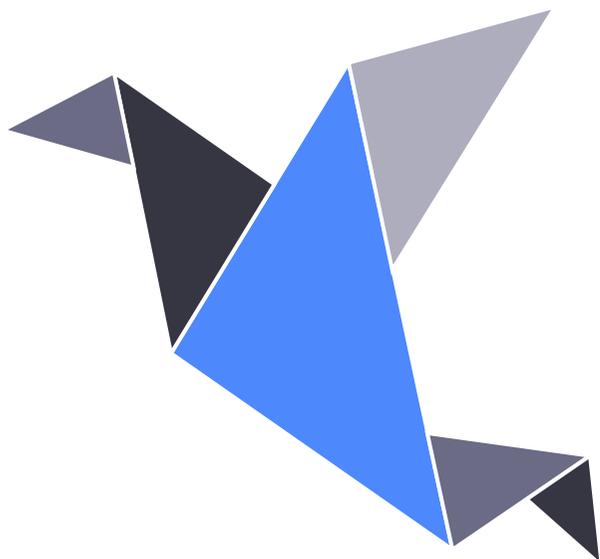


- ・ PWDTトークンの発行
- ・ PWDTのプレセール 第1期

- ・ PWDTのICO開始
- ・ PWDTの配布開始
- ・ PWDトークンの発行

| PWDTのアフィリエイトプログラム制度

PWDTトークンについては、アフィリエイトのプログラムがあります。



ETHでのプレセール&ICO

一律5%の紹介報酬となり、それらはPWDTでボーナスとして付与される形となります
※ETHでの報酬のご希望の方は個別契約となります

紹介者ID

ユニークIDがICOのポータルサイトで発行できます

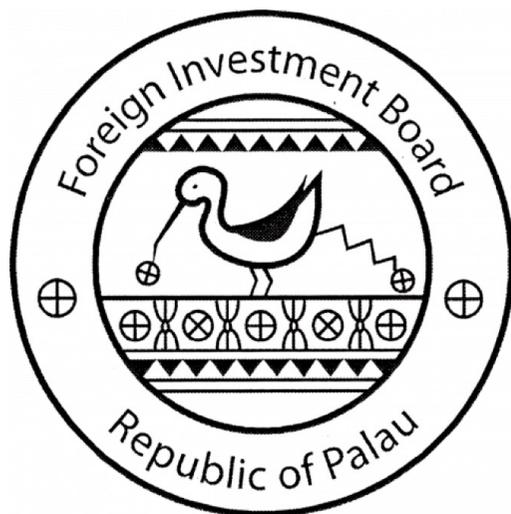
ネットワークビジネスではありません

アフィリエイトプログラムは一次代理店だけに適用されます

運営会社及び販売会社について



パラオ共和国内で、パラオの法の下で活動を行います。FIBの許可を取得した法人です。



- **パラオデジタルドル（PWD）の発行：**
Palau Digital Transformation Inc.（予定）
（Melekeok, Palau）
- **パラオ開発トークン（PWDT）の発行、PWDTのセールス、開発事業：**
Palau Majesty Development Inc.（Koror, Palau）
P.O.BOX 6016, Palau, PW 96940
- **アメリカドル保管の保管先銀行：**
National Development Bank of Palau*
Bank of Guam / Bank of Hawaii



*銀行の担保金を増資して、個人口座開設を可能にすることを目標とし、資金を完全に分離保管する



付録



ステーブルコイン(PWD)発行会社

安定性で未来の金融を支える



決済会社

どこでもいつでも、シームレスな取引を



仮想通貨取引所

世界の暗号通貨市場へのゲートウェイ



ブロックチェーン



ステーブルコイン(PWD)発行会社

ステーブルコイン(PWD)発行会社は、世界のステーブルコインの50%以上のシェアと取得するように、安定した前払式支払い手段を提供します。パラオデジタルドル (Palau Digital Dollar)から、単に「デジタルドル (Digital Dollar)」と呼ばれるように進化する予定です。



**世界初の「運用しない」を基本とした
安定的なデジタル通貨**

**50種類以上のERC20トークンのウォレットが存在
(カスタムトークンが使えるウォレットで使用可能)**

**ステーブルコイン市場は5年後に2.8兆ドルに達し、
8年後にはさらに拡大すると予想されています。**

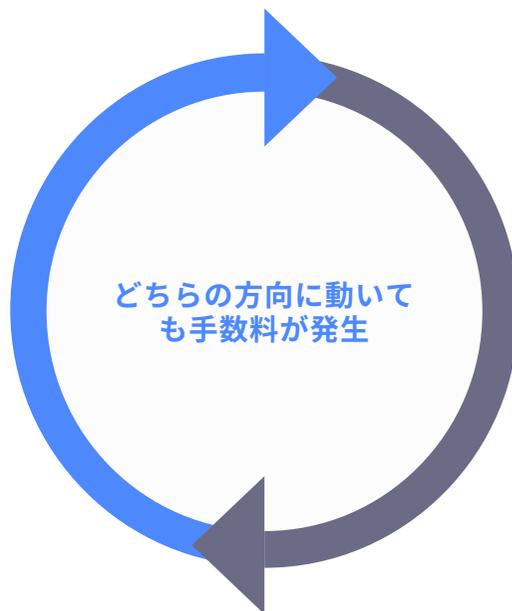
エクステンジとリディーム

仮想通貨と現金の需要はどちらもなくならないため、どちらに動かしても利益を継続して得ることができる



現金

事業者やユーザーが受け取ったパラオデジタルドルの現金化についても一定の需要は続くことが予想される。



パラオデジタルドル

実際の決済サービスであったり、他の仮想通貨への両替のために現金のデジタル化需要は非常に高い。

パラオデジタルドル (PWD)
発行会社

7兆円

2020

過去5年のステーブルコイン 市場の動向

市場の成長: 2020年には、ステーブルコインは世界の暗号資産市場の約2%を占めていましたが、2020年から2021年のDeFiブームにより急速に成長しました。2022年には市場規模が約1,800億ドルに達しましたが、テラUSDの崩壊により、2023年初めには1,380億ドルまで縮小しました。

成長の要因: 最初の急成長は、分散型金融（DeFi）での利用が増加したことと、ビットコインなどの暗号資産の価格変動に対し、安定的なデジタル資産の需要が高まったことが要因です。また、暗号資産取引ペアの主要な通貨としてステーブルコインが普及しました。

525
兆円

2028

次の5年間の予測

市場拡大：ステーブルコイン市場は今後大幅に成長すると予想され、2028年までに約3.5兆ドルに達する見込みです。この拡大は、PayPalの新しいステーブルコインのように、消費者向けプラットフォームの統合が進むことや、国際送金や決済といった幅広いユースケースに起因しています。

金融プラットフォームとの統合：PayPalのような企業が独自のステーブルコインを導入することで、その採用が加速しています。

グローバルな普及：日本やシンガポールをはじめ、多くの国でステーブルコインのプロジェクトが試行されており、それが信頼性を利用が高めています。

機関投資家による採用：ステーブルコインは、仮想通貨取引間の資金運用やボラティリティに対するヘッジ手段として、機関投資家に好まれる手段となっています。

決済会社

QRコードをお店に置くだけで、最短翌日に現金が銀行口座に振り込まれる決済サービスを実現。正しく決済が完了したかどうかは、専用の端末がなくても、パソコン及びスマートフォンのブラウザから確認が可能。



**ホテルやレストラン、ECサイト*や店舗で使える
決済サービスを提供**

為替変動リスクのない、ステーブルコイン決済

**ステーブルコインだけにとどまらず、仮想通貨の
決済も将来的に可能となる予定**

専用端末不要でQRコードを印刷するだけでOK

*オンラインでの決済サービスは、店舗ベースのサービスの後に提供予定

仮想通貨取引所

パラオの現大統領は、パラオを第二のシンガポールにすることを目標に、通常の金融ではなく、次世代型金融（仮想通貨）の中心地を目指しています。その目玉事業として、仮想通貨の取引所を用意致します。



パラオデジタルドル（PWD）の販売所としての役割

BTCやETHをはじめとする全世界に流通する仮想通貨とPWDを交換

PWDは世界中の仮想通貨取引所で、安定的な待避用資金として米ドルやUSDTの代わりに使用される様に設計されている

Eレジデンシー（電子住民票）でKYC及び登録が可能

シェラトンパラオホテル

パラオの中心で再定義されるラグジュアリー。



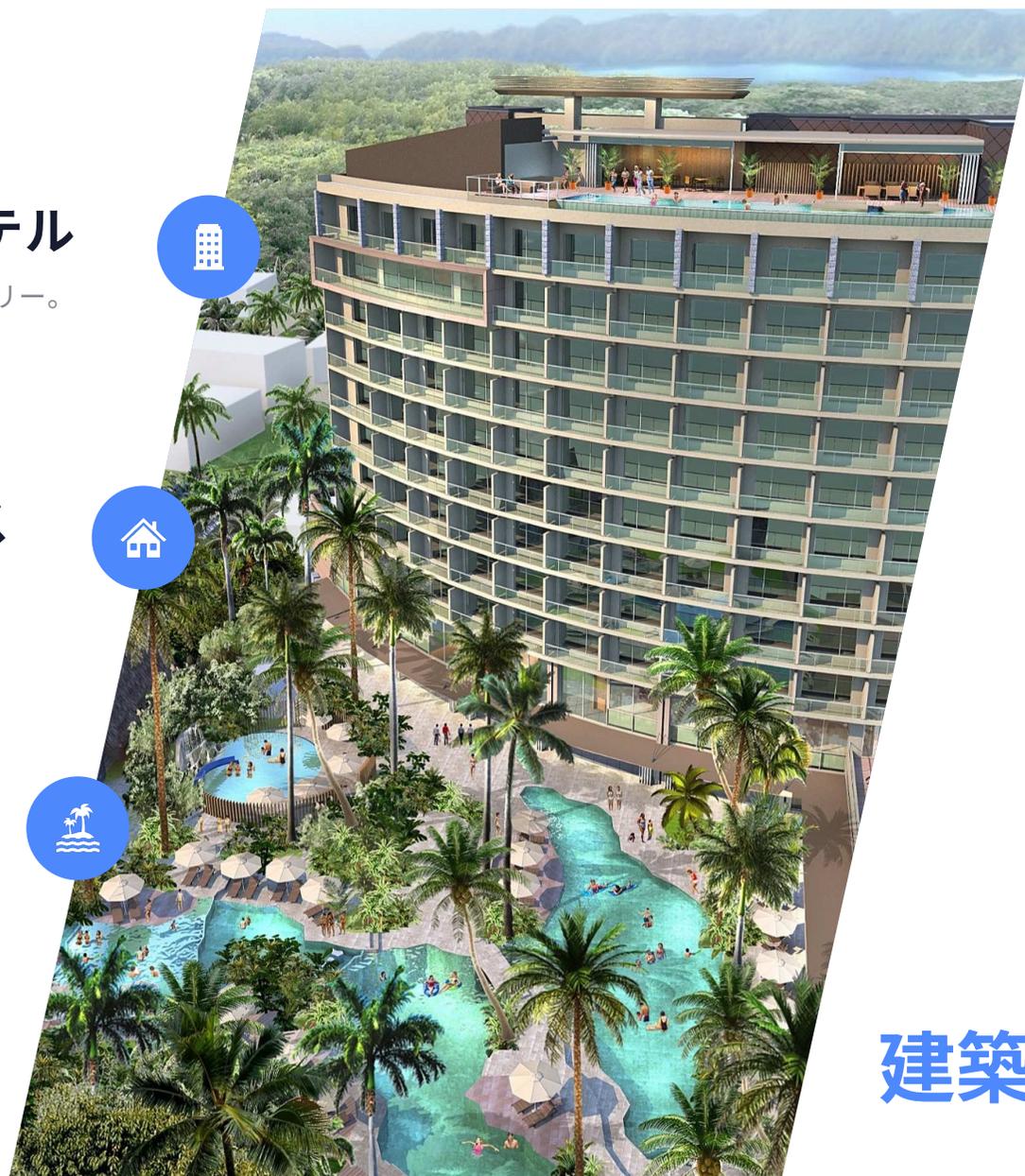
アフタータブルハウス

コミュニティを築き、暮らしを創造する。



メディカルリゾート & ウェルネスリゾート

健康と癒しが融合するリトリート。



建築事業

シェラトン・パラオ・リゾート

パラオ・マジェスティ・デベロップメント（PMD）の主要ホスピタリティ・イニシアチブ



概要

シェラトン・パラオ・リゾートは、パラオ共和国最大の都市であり商業の中心地であるコロールに位置する新たなフラッグシップ開発です。

2028年4月の開業を予定しており、マリオットグループがパラオ島に進出し、国際ホテルブランドとなります。

シェラトン・パラオ・リゾート

パラオ・マジェスティ・デベロップメント (PMD) の主要ホスピタリティ・イニシアチブ



主な特徴

- 159室のゲストルームと9つのスイート
- 複数のダイニング施設：
終日営業レストラン、屋上レストラン、寿司バー、プールバー
- 272平方メートルのイベント用スペース、スイミングプール、シェラトン・フィットネスセンター、スパ
- 市中心部から数歩の距離に位置する一等地
- ホテル敷地内に広がる200メートルのマングローブを通じて、海岸やトロピカルな野生生物へのアクセスが可能

シェラトン・パラオ・リゾート

パラオ・マジェスティ・デベロップメント (PMD) の主要ホスピタリティ・イニシアチブ



戦略的重要性

短期・中期的にはパラオ共和国のほとんどの社会的・産業的・政治的イベントに対応すると期待されています。

都市型のラグジュアリーと自然体験をひとつのリゾート内で提供します。

SDGsフレンドリー住宅開発

地元住民やホテルワーカーを対象とした、環境に優しく長い寿命の住宅を建設します。日本の伝統的な技術を用いて、パラオの環境に適応した持続可能な住宅を提供します。



- **対象者**
地元住民およびホテルワーカー
- **伝統的技術**
日本の技術を活用した耐久性の高い住宅
- **環境対応**
持続可能な設計で環境に配慮
- **SDGs貢献**
持続可能な社会と地域経済に貢献

メディカルリゾート&ウエルネスリゾート

糖尿病の完全な治療には、パラオだけでなく世界的なニーズがあります。一方、糖尿病及び糖尿病合併症を完治するには、約1ヶ月半程度を必要とし、膵臓の機能回復には血糖値を安定させる必要があるため、この間医師のアドバイス下での食生活が必須となります。



医療ツーリズム

手術をしないで、飲み薬のみで、血糖値をコントロールしながら糖尿病を完治させます。医療ツーリズムとして事業化を行い、「**健康と癒しが融合する静養地、パラオ共和国**」という、リゾートを開発します。

世界の島国の糖尿病完治モデル国として

糖尿病完治の為の治療だけでなく、予防を行う為の薬剤食生活や生活習慣の改善も進めます。

糖尿病関連クリニック

パラオで糖尿病のない生活への道を作る



糖尿病完治薬関連事業

糖尿病を完全に治す未来へ



医学部（サテライト）

次世代の医療リーダーを育成



糖尿病 & 医療

糖尿病関連クリニック

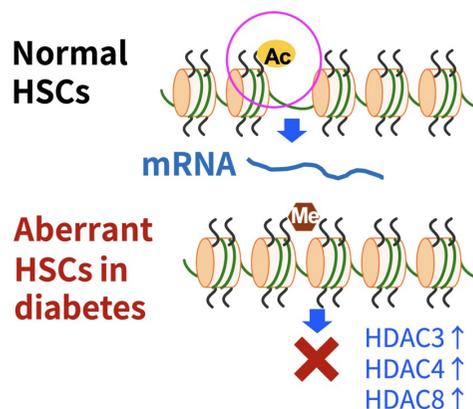
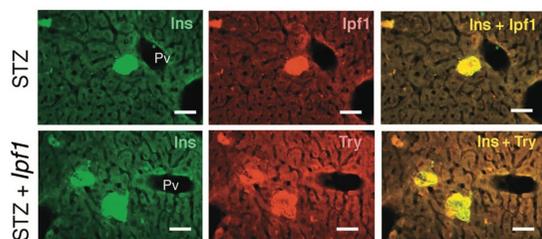
約3人に1人が糖尿病或いは糖尿病予備軍とされるパラオをモデル国として、世界のすべての人の糖尿病完治を目指すプロジェクト。糖尿病の根治的治療法を確立し、医療ツーリズムを通じたパラオの経済成長促進。



- 糖尿病の完治を目指し、パラオから糖尿病をなくす
- パラオをモデル国とし、将来的には他国へ展開
- 最新の糖尿病完治薬とリハビリプログラムを融合した治療法の提供
- 食事・運動指導を含む予防プログラムの実施
- パラオ政府、地域医療機関、大学研究者との連携

糖尿病完治薬関連事業

糖尿病は一度発症すると治らない病気とされています。現在の治療は血糖コントロールという対症療法に限られ、完治させる治療薬は存在していません。専門医も根本的な治療法がないことを認めています。



世界の糖尿病の現状

- 世界には5億3700万人が糖尿病を抱えている
- 成人の10人に1人、高齢者では5人に1人が糖尿病を発症
- 総医療費の10%以上、年間135兆円近い経済的負担

研究のブレイクスルー

- インスリンとHDAC阻害剤の経口投与または静脈注射により、実験で完治を実証
- 原因は膵臓ではなく、骨髄中の造血幹細胞の異常
- 飲み薬で糖尿病を完治させることが実現可能

医学部（サテライト）

パラオ国内にはカレッジに少数の看護学生が在籍だけで、医学部の学生がそもそもいないので、国内では医師が育たない状況の改善を目指します。



- 日本の大学と連携したサテライト通信教育の活用
- 一部の学生は日本での実習や研修を実施
- 実践的な教育を通じて、質の高い医療人材を育成
- 現地医療の水準を大幅に改善
- 島国特有の医療事情を知る医師を教育（糖尿病等）

リサイクリング事業 (ごみの焼却・リサイクル)

廃棄物を持続可能な資源に変える

観光関連 (WEBサイトやメディア等)

パラオの魅力の世界とつなぐ

パラオでの農業事業他

持続可能な未来のために成長を支える



SDGs関連事業

リサイクリング事業（リサイクル、資源循環型経済）

世界初の国規模での循環型経済イニシアチブに向けた取り組みが、既にコロール州政府によって計画されています。これは、国全体で資源循環型社会を実現する世界初の試みとなります。



- コロール州政府は世界初の国規模での資源循環型社会の実現に向けた取り組みを行っています。
- 2004年以降、70～80%の施設が完成しており、コンテナ回収施設、熱分解プラント、堆肥製造施設、Belauエコグラスセンターが完了しています。
- 提案された中間処理施設が導入されれば、国規模での資源循環型社会の運営が可能になります。
- プロジェクトの運営には600万～700万ドルの費用がかかり、完全に稼働すれば年間約200万ドルの収益が見込まれています。パラオのGDPに対する影響は、将来的に10～20%（約2300万ドル）を占めると予測されています。

観光関連（WEBサイトやメディア等）

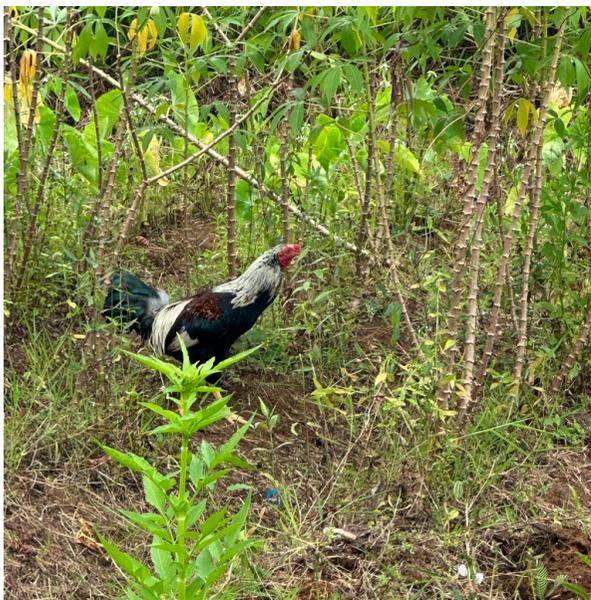
キュレーションサイトやポータルサイトを構築し、写真や動画SNSを活用してパラオの観光をPRします。この取り組みは、現在パラオで展開している事業との相乗効果を生み出し、観光の魅力を高め、経済成長に貢献することを目指します。



- パラオの観光資源に特化したキュレーションサイトとポータルサイトの開発
- 写真や動画SNSを活用し、パラオの自然の美しさやユニークな観光名所を発信
- パラオで行っている既存の事業と連携し、相乗効果を創出
- SNS上でユーザー生成コンテンツを共有し、潜在的な観光客とのエンゲージメントを向上
- エコツーリズムや文化遺産をデジタルプロモーションで強調し、長期的な持続可能性を目指す

パラオでの農業事業他

主な農産物は、タロイモ、キャッサバ、バナナ、ココナッツ、野菜類です。農業は小規模な家族経営の農場が中心で、土地が限られているため、生産量は低く、輸入に依存しています。



食料自給率

- 約80%以上の食料を輸入に依存
- 特に米、肉類、加工食品は全て輸入
- 農業の近代化とローカルフードの推進が課題

支援事業としてのイニシアチブ

- 地元の食料生産を増加
- 生産性向上のための近代的な農業技術導入
- 健康的な伝統食の推進
- 国際農業機関との協力推進



日本パラオ友好の橋 (アイライ州内)



Palau Majesty Development Inc. (Koror, Palau)
P.O.BOX 6016, Palau, PW 96940